



巻頭特集

みんな食べておいしいね! 楽しいね!

蛭池こども食堂

全国的に広がりを見せる「子ども食堂」の活動を、蛭池でもやってみようと思っ立ち上がった人たちがいる。「ひとりで食事をする人や地域の人たちが集まって楽しく食べられる場をつくりたい」という熱い思いが重なり始まった『蛭池こども食堂』取材した。



「子ども食堂」に興味を持つ人が集い、スタートした

阪急・大阪モノレール「蛭池駅」すぐの複合ビル「ルシオーレ」へ行くと「蛭池こども食堂実行委員会」の主宰者・宮原味佐子さんが出迎えてくれた。以前はグラウンドホステス、現在は同ビル内で海外の雑貨を取り扱うショップや英語教室を運営。福祉活動とはまったく違う仕事をやる中で、なぜ「子ども食堂」を始めたのか。

「最近よく耳にする、孤食（ひとり）で食事をする（こと）をなくしたい」と思ったことがきっかけと話す宮原さん。核家族化や親の共働き、高齢者のひとり暮らしなどライフスタイルの多様化により、ひとりで食事をする人が増加している。「みんなで楽しく食事をとれる場所があったらなあ」と思っ。私が食べることに大好きだから特にそう感じたのかな」と明るく話す宮原さん。しかし、いざやろうと思っても、自身が福祉に携わってき経験はなく、専門の知識もない。ひとまず市内（庄内）で活動している「ぐーてん こどもしよくどう」の主宰者・佐々木妙月さんが知人ということもあり、相談へ。模索を続ける中、ある日、佐々木さんから一本の連絡が。「ルシオーレ」内にある「カレーハウス ガラム」の店長が「子ども食堂」に以前から興味を持っていらしいという内容だった。



「蛭池こども食堂 実行委員会」主宰者 宮原味佐子さん 明るく気さくでお話上手。「お客さんからもメッセージが活動の励みです」と話す。

「まさかこんな近くに同じ思いの人がいたなんて」と、宮原さんは早速連絡を取り、実現に踏み出した。記念すべき第一回は2016年11月。スタッフ皆初めての経験で開店前はドキドキだったが、そんな不安をよそに、大人、子ども合わせて73名が来店。大盛況を収めた。「思いは声に出せば形になるんだと実感しました」と宮原さんは微笑んだ。

おなかも満足 大人は一息つける場所

「子ども食堂」というとサポートが必要な家庭や子どもへの支援活動として捉えられがちだが、「蛭池こども食堂」は対象を限定せず、地元の子どものや保護者、近所に住む人など幅広い客層が訪れるのが特長。子ども200円、大人300円で利用できる。宮原さんは「子どもたちには来て欲しいけれど、ひとり暮らしの人やお年寄り、仕事終わりの食

事をつくる元気が出ないお母さんたちが「ちょっと食べて帰ろっか」と気軽に立ち寄れる場所だといいな」と言う。活動は毎月第3月曜日の17時〜20時。月曜日は「カレーハウス ガラム」の休日で店舗が会場に。告知に50食限定と掲げているが「足を運んでくれた人を大切にしたい。多くの方に喜んでもらえるなら」と腕を振るうのは店長・榎本守さん。たくさんのカレーと、毎回多方面の人たちから寄付として贈られてくる食材を生かし、おかず数品を準備する。なんとおかわりもOKで、多い子だと3杯も食べてしまうというからびっくり。一口の味を堪能できる、贅沢な夕飯だ。

いつも開店から程なくして店内は満席に。1人でやってきて、隣の席の子とワイワイおしゃべりしながらカレーをおいしそうにはおぼる子、親子で来た子は食事後、子ども同士で遊んだり工作したり。お母さんは他のお客さんと子育て

の悩みや地域の情報を交換し合い談笑する姿が、子育て中のちょっとした息抜きにもなっている。

スタッフやゲスト、お客さん みんなでつくる温かな空間



キャビンアテンダントの友野さんと楽しそうに遊ぶ子どもたち

ペットボトルと風船で作る空気鉄砲。宮地さんに教わりながら子どもたちも真剣

取材当日は第8回目の開催日。この日も店前に並ぶ人が出る盛況ぶり。忙しく立ち回るスタッフだが、みんななんだか楽しそう。「地元のために何かをしたい」と初回から毎月参加している備後卓矢さんは、地元愛に溢れる小学生のパパ。子ども同士が学校で「今日食堂行く?」と話しているの知り、にんまり。「回を重ねるごとに子どもだけの参加が増えて、第4回目に子どもの数が大人を超したんですよ。子どもの口コミは強力ですね」と笑う。作業スペースは、活動の立ち上げから参加している宮地和夫さんの担当。この日はペットボトルの空気鉄砲を作り射的で遊んで大盛り上がり。これまでに絵本作家の三岡有矢音さんや、「ルシオーレ」の催しに出場していた歌手・新菜ひかりさんと伊禮恵さんがゲスト

この日のメニュー

- カレー/揚げナス
- コロッケ/コーン
- エビフライ
- メンチカツ
- 野菜炒め
- スイカ
- さくらんぼ



さくらんぼは、同食堂の活動を知った山形の「滝口果樹園」からいただいたもの

子どもからのお礼のメッセージ。毎回食事後にお客さんに書いてもらっている。



おいしい!

取材協力



宮原味佐子さん 榎本守さん 備後卓矢さん 「皆さんの温かいご支援にいつも助けられています」

蛭池こども食堂実行委員会事務局
豊中市蛭池中町3-2-1 ルシオーレ2F
インパクト英会話内
TEL.06-6398-7133 / FAX.06-6398-7132
Facebook (「蛭池こども食堂」で検索) で
情報随時発信中